

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東山常滑物流センター	階数	地上1F
建設地	愛知県常滑市りんくう町一丁目25-2	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	20人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2018年7月25日
敷地面積	7,708 m ²	作成者	兼松朋恵
建築面積	4,387 m ²	確認日	2018年7月26日
延床面積	4,387 m ²	確認者	岩治 洋



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

環境品質 G (39) / 環境負荷 L (38)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ (30%)

標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 73%, ③上記+②以外の 73%, ④上記+ 73%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境 (敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 2

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.0

③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) **2.7%**
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) **0.0%**

②資源の有効活用

2.9

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> なし
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	全体		
	重点項目									建物全体・共用部	建物全体・共用部
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ソーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

独自

②

②

耐震クラスAにしているため

3 対応性・更新性				3.4	0.48			-	3.4
3.1 空間のゆとり		②	階高6.0mを確保 壁長さ比率が0.12となる	4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22			-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性								-	3.4
LR1 エネルギー					0.40			-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制								-	
2 自然エネルギー利用								-	
3 設備システムの高効率化			BEIm=0.43	5.0	0.60			-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.40			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	1.00			-	
4.2 運用管理体制								-	
集合住宅の評価								-	
4.1 モニタリング								-	
4.2 運用管理体制								-	
LR2 資源・マテリアル					0.30			-	2.7
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			省水型機器(擬音、節水型便器)を用いている	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.63			-	2.5
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		独自		3.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.7	0.22			-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.68			-	
1 消火剤				2.0	0.33			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33			-	
3 冷媒				3.0	0.33			-	
LR3 敷地外環境					0.30			-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が73%のため	4.0	0.33			-	4.0
2 地域環境への配慮				2.4	0.33			-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	評価する取り組みの3項目に該当	4.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自						-	
3 悪臭								-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制								-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインの過半を満たし、屋外広告物照明無し	5.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

東山常滑物流センター

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:2.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 東山常滑物流センター

計画上の配慮事項	
総合	効率的な作業を可能にするゾーニング、経済性の高い建材の使用、周辺の自然環境との調和を目指した。
Q1 室内環境	
Q2 サービス性能	階高にゆとりを持たせた。
Q3 室外環境(敷地内)	前面道路に面して緑化を行い、周辺環境に配慮した。
LR1 エネルギー	省エネルギーに配慮した。
LR2 資源・マテリアル	節水コマに加え、節水型便器を使用し、節水に配慮した。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車場を確保するとともに、十分な荷捌きスペースを確保した。
その他	